

戦時下の学校と 子供たち (3)

太平洋戦争終末期 (昭和19〜20年8月終戦)

米軍等の侵攻と日本軍の敗退、そして、アメリカ軍の空襲が激しくなる中で、学校の子供たちも避難と勤労作業に明け暮れました。子供たちは、どんなことを教えられていたのでしょうか？
どんな願いを持って暮らしていたのでしょうか？

7. 勤労動員に明け暮れる生徒たち

(昭和19年〜20年)
昭和19年(1944)からは「学徒動員」が通年実施となり、中等学校3年生以上では本格的な工場勤労動員が始まり、教室における授業は殆ど行われなくなりました。



川崎航空機で働く富田高女生

岐阜市域では、岐阜中・岐阜二中・岐阜商業・岐阜高女・加納高女・富田高女においては授業を停止し、各務原陸軍航空廠や川崎航空機製作所、その他の軍需工場などへ動員されました。

これら生徒は、工員と同じく毎日通勤し、午前8時から午後5時まで勤務しました。昼夜二交代で夜勤もありました。男子も女子も国防色の作業服に神風と染め抜いた日の丸の鉢巻きを締め、厳しい労働を頑張り抜きました。

昭和20年(1945)に入り空襲が激しくなると、岐阜高女・加納高女・富田高女は工場動員を廃止し、いずれも「学校工場」として雨天体操場や教室で飛行機の部品の製作やタンクの布張り等に従事しました。
中等学校1・2年生も、農作業奉仕・防空壕掘り・間引き家屋の撤去・軍

岐阜市の警戒・空襲警報発令回数

| 昭和年 | 月 | 警戒警報 | | 空襲警報 | |
|-----|-------|------|----|------|----|
| | | 日数 | 回数 | 日数 | 回数 |
| 19 | 4~8 | 8 | 8 | 3 | 2 |
| | 9~12 | 24 | 31 | 16 | 16 |
| 20 | 1~3 | 24 | 31 | 14 | 16 |
| | 4 | 12 | 16 | 3 | 3 |
| | 5 | 18 | 23 | 3 | 3 |
| | 6 | 18 | 28 | 7 | 8 |
| | 7 | 17 | 23 | 9 | 11 |
| | 8.15迄 | 9 | 15 | 5 | 7 |

し、この頃には日本の勝利は絶望的になっていました。

11月頃からはサイパン島を飛び立った爆撃機B29が、日本本土の攻撃を開始しました。各地に点在する軍需工場等の爆撃に続き、昭和20年3月からは東京等の大都市、そして地方都市の焼夷弾攻撃。更には兵器廠・化学工場、輸送機関等を攻撃したのです。

昭和19年(1944)の後半からは、連日の警戒警報・空襲警報に悩まされ、学校教育は殆どその機能を停止し、全ての教師と生徒は避難と勤労作業に明け暮れました。

各学校では防空壕掘りに力を入れ、校庭は防空壕と食糧増産のための畑の広場になりました。

「集団家屋疎開」
(昭和10年生まれのYさんの話)
昭和20年になると「集団家屋疎開」といって、岐阜駅前から神田町や七軒町付近までの両側の家は道路拡張のために全部壊されることになりました。これは「空き地・空地帯を造り、空襲



防空壕を掘る富田高女生

から街を守るため」と言われましたが、私の家もその対象で、母の実家の美園の祖母の家に荷物が運ばれました。徹明学校から帰ってくる時に家を壊しているのを見て「なんで壊すんだらうなあ」と思いました。(略)

昭和20年(1945)3月、アメリカ軍は本土空襲の中間基地となる硫黄島を制圧し、4月沖縄本島上陸を開始しました。学生・女性を含む多くの県民が抵抗しましたが、10万人以上の人々が命を落としました。

昭和20年(1945)3月、「決戦教育措置要綱」が発表され、国民学校初等科以外の授業は中止となりました。そして、各地の中学校や女学校への工場移転が推し進められ、教室から追い出された生徒たちは勤労

需工場への手伝いなどに動員されたり、学校農園や空き地などでの食糧増産活動に励んだりしました。戦局の悪化と共に、学徒兵の徴募も盛んになりました。特に「予科練の歌」の流行と共に、海軍飛行予科練の募集に、各校生徒は競って応募しました。その他、陸軍士官学校や海軍兵学校を目指す者もありました。

8. 国民学校高等科児童をも動員!

(昭和19年〜20年)
昭和19年(1944)2月、「決戦非常措置要綱二基ク学徒動員実施要綱」が決定され、動員対象が中等学校1・2年生と国民学校高等科にまで広げられました。

白山国民学校では、昭和19年度1年間に合計86回の作業が行われ、その内容は廃品回収・灰集め・馬糞拾い・開墾・農作業・運搬・防空壕造り、高等科生の工場動員でした。

昭和20年(1945)になると更に恒常化して、4月から8月までで65回に増え、疎開家屋の撤去や整理作業、戦災後は焼け跡整理などに多く動員されました。



高等科児童工場動員

岐阜空襲の被害(旧岐阜市域分のみ)
(当時の岐阜市人口は約17万5千人)

- ・死者→863人
- ・罹災者→86197人
- ・全半壊家屋→20427戸
- ・焼失した学校→師範学校(女子部)、岐阜高女、加納高女、富田高女、済美高女、岐阜市立女子商業、岐阜第一中、岐阜市立第一工業、岐阜盲学校、京町国民、徹明国民、明德国民、木之本国民、本荘国民、本郷国民、白山国民、加納第一国民、加納第二国民

学徒として学校工場に動員され、授業は全く姿を消すことになりました。

そして、昭和20年(1945)7月9日、午後9時半頃から翌日早朝にかけて、米軍機B29約70機が焼夷弾約900トンを投下しました。その結果、岐阜市並びに近郊の合渡地区等は焼け野原と化しました。そして、多くの死者や罹災者を生み、旧市街地のほとんどの地域・学校が焼かれたのです。

10. ポツダム宣言を受け入れ、終戦

8月6日・9日の広島と長崎への原子爆弾投下を経て、日本はやっとポツダム宣言を受け入れ、8月15日に戦争は終結しました。

この「日中戦争と太平洋戦争」の日本人犠牲者は、軍人・軍属・一般市民も含めて310万人(その内240万人は海外の国や島で)を数えました。

梅林国民学校における勤労作業

1. 2年 れんげとり
3. 4年 よもぎとり
5. 6年 農耕地開墾
- (高等科1年) 長良堤開墾や瓦あげ作業、食糧増産・資源採取
- (高等科2年) 長良堤開墾、長森北地区勤労動員、大日本紡績作業奉仕、陸軍整備学校勤労奉仕、軍需産業工場の仕事

「戦時下の小学校生活」 (昭和10年生まれのSさんの話)

昭和20年、私は長良国民学校の5年生であった。終戦間際の食糧難時代で、学校でも食糧増産のため授業はなく、サツマ芋作り。

長良川の川原を開墾して砂地に苗を植え、そこへ肥料をまく。学校の便所から小便を汲み出し、それを肥料に7分目まで入れ、竹の棒を差し込み二人で担ぐのである。

暑い日照りの中、学校から現在のグランドホテル下の川原まで肥料を運ぶのである。竹の棒が肩に食い込み、並大抵の痛さではない。

それに二人の呼吸が合わないとお互である。ピチャピチャと小便が跳ね前を担いでいる子の背中に、後ろを担いでいる子の胸の辺りから時には顔の近くまで濡れるのである。

9. 米軍の空襲激化・「本土決戦へ」

(昭和19年〜昭和20年)
昭和19年(1944)7月、日本軍はマリアナ諸島サイパン島で全滅

しかし、この大戦で犠牲になった人は、日本人だけではありません。中国や朝鮮半島はもちろんな、アジア諸国、中部太平洋諸島、アメリカなどの人々2000万人以上の尊い命を奪ったのです。

11. 何度も繰り返された教室の風景

「先生、昨日お父ちゃんが戦地から無事帰ってきました。」と満面の笑みで報告する子。…「そう、良かったね。」と声を交わしながらも、他の子の顔を伺う先生…。先日お父さんが戦死されたことを報告したばかりの子は急に泣き出してしまいました。出征された父親や兄の消息がまだ分らない子たちは、暗い顔になって廊下の方へ歩き出しました。教室中に「嬉しさ」と「悲しさ・涙」「不安」が入り混じり、重苦しい雰囲気になりました。

○この文章は、「岐阜県史」「岐阜市史」「写真集・目で見る岐阜市民の100年」「岐阜県教育史」「学校も戦場だった」などを参考に、後藤征夫がまとめました。

岐阜市歴史博物館ボランティア
「お話・岐阜の歴史サークル」
代表 後藤 征夫
http://book.geocities.jp/gifuuekisi/ekisitop.htm
TEL 058-231-6726